

## 基本的方向2 エコな「ライフ&ワーク」スタイルの推進

私たちは、自らの生活が、自然や環境にマイナスの影響を与えているということを認識して、水やガス、電気などの資源やエネルギーを使いすぎたり、まだ使える物を簡単に捨てたり、不要なものを買うことを止めるなど、これ以上環境問題を深刻化させないために、環境への負荷を低減する取組みを実践することが重要です。このような、日常生活や事業活動を見直して、環境に配慮した行動へ変革するのがエコなライフ&ワークです。地球温暖化防止のために再生可能エネルギーを効率よく利用することや、エネルギー全般の節約を日常生活や事業活動の中で推進し、習慣化することで、社会資本を含めた低炭素化に取り組むことが必要です。そのためにも、継続的に事業活動や市民生活の中で、環境を意識した行動へ変換する取組みに対する支援策も含めた仕組みづくりが求められています。

### ●基本的方向2の具体的な取組み

#### 2-1 家庭における環境負荷低減活動の推進

- 省エネルギー住宅の普及啓発
- エコライフの普及啓発
- 環境拠点の運営
- 雨水の有効利用の促進

#### 2-2 事業活動における環境負荷低減活動の推進

- 地域ぐるみ環境 ISO 研究会の活動推進
- 環境マネジメントシステムの運用・推進
- 雨水の有効利用の促進

#### 2-3 学校・保育園における環境負荷低減活動の推進

- 学校のいいむす 21・保育園のいいむす 21 の運用・推進
- 雨水の有効利用の促進

#### 2-4 地域活動における環境負荷低減活動の推進

- 市民活動への支援と協働

### ●基本的方向2の目的の達成度を表す指標の達成状況

指標番号	目的の達成度を表す指標	単位	令和2年度	平成30年度 目標	平成30年度 実績	達成 状況
1	飯田市全体が排出する温室効果ガスの排出量※1	t-CO <sub>2</sub>	602,522	648,305 (H29)	634,002 (H29)	◎
2	再生可能エネルギー利用等による温室効果ガスの削減量	t-CO <sub>2</sub>	28,430	26,869	32,951	◎
3	市内の太陽光発電電力量が一般家庭の年間電力消費量に占める割合	%	25.76	24.44	30.76	◎
4	環境負荷低減活動を継続的に実施している市民の割合	%	100.0	93.6	86.8	△
5	環境マネジメントシステムに取り組んでいる事業所数	所	225	210	209	△
6	一世帯あたりの温室効果ガス平均排出量	t-CO <sub>2</sub>	3.06	3.31	3.58	△
7	飯田市市内の森林管理による温室効果ガスの吸収量	t-CO <sub>2</sub>	4,288	21,44	26,40	◎

◎：目標以上の達成

○：目標達成

△：目標未達成だが上昇傾向 ×：目標未達成で横ばいまたは下降傾向

※1 温室効果ガスの排出量は、1年遅れでの算出となる

基本的方向1と同様の指標であるため、グラフは省略

## ●基本的方向2の具体的な取り組みの実施状況

### 基本的方向2-1 家庭における環境負荷低減活動の推進

#### (1) 計画期間中の取り組み目標

- ア 建築関係業者の環境配慮型住宅に対する知識や技術がさらに高まり、省エネルギー住宅の普及に向けた取り組みが広く展開されています。
- イ 環境問題への関心が高まり、省エネルギーを意識したライフスタイルに変化しています。節電、節水、エコドライブ、リサイクルの徹底など、環境を意識した日常生活が習慣化されています。
- ウ 「りんご並木のエコハウス」の来場者に、エコハウスのメリットを直接体験してもらうことで、環境配慮型住宅の普及に繋げるとともに、低炭素なまちづくりの重要性が浸透しています。
- エ 「旧飯田測候所」が環境教育の拠点として、環境人材を育成し、環境に関する情報を発信しています。

#### (2) 取り組み目標に対する進捗状況

4年後の目標に到達する手段	H30年度の進捗状況
① 「りんご並木のエコハウス」などを活用し、省エネルギー住宅の普及啓発を行う。	◎ 実施中
② 省エネルギー、節水、節電など環境負荷低減活動を推進し、その成果の見える化と把握方法について研究する。	○ 実施中
③ 「旧飯田測候所」を活用した環境関連の学習やセミナーなどを行う。	○ 実施中

◎：目標達成または計画通りに推移 ○：目標達成に向けて実施中

△：外部要因により実施停滞 ×：未着手

#### (3) 平成30年度の取り組み状況

- ア 日常生活における低炭素活動の普及を図るため、指定管理者を通じてエコハウスを運営し、エコカフェ事業を延べ62講座実施するとともに、エコライフコーディネーターによる広報いいだでの毎月のエコライフ情報の発信など、啓発事業を行いました。
- イ 環境に関する市民アンケートを実施し、省エネルギー及び節水、節電など環境負荷低減活動の取り組み状況について調査を行いました。
- ウ 指定管理者であるおひさま進歩エネルギー株式会社を通じて旧飯田測候所を適切に管理するとともに、飯田自然エネルギー大学などの環境教育の拠点となる事業及びムトス飯田賞を受賞した橋北面白倶楽部などの地域と協働したコミュニティ活動を創出するよう運営を行いました。

#### (4) 次年度に向けた課題及び取り組み

- ア エコハウスの来場者が減少傾向にあるため、指定管理者である橋南まちづくり委員会との協働によりエコハウスでの実施事業の内容と情報発信を充実させ、来場者の増加に繋がります。
- イ エコハウスと旧飯田測候所のいずれも、施設の老朽化により修繕を必要とする箇所があるため、来場者が安全に利用できるよう対策を実施します。
- ウ 旧飯田測候所の指定管理者が実施している飯田自然エネルギー大学のほか、地元の橋北まちづくり委員会とも連携した環境人材育成の契機となる講座などの開催を検討します。

#### (5) 対応する事務事業（資料編参照）

- ア No.150 環境モデル都市行動計画進行管理事業
- イ No.155 省エネルギー推進事業
- ウ No.156 エコライフ啓発普及事業
- エ No.157 旧飯田測候所活用事業

## 基本的方向 2-2 事業活動における環境負荷低減活動の推進

### (1) 計画期間中の取り組み目標

- ア ISO 14001 や地域独自の環境マネジメントシステム「南信州いいむす 21」などに取り組む事業所数が、現在より増えています。
- イ 上記以外の事業所でも、「地域ぐるみ環境 ISO 研究会」などの呼びかけによるノーマイカー運動などの一斉行動などに取り組み、地域全体での環境改善活動が行われています。

### (2) 取り組み目標に対する進捗状況

4年後の目標に到達する手段	H30 年度の進捗状況
① 地域内の事業所が、経営環境及び力量に応じた ISO 14001 や地域独自の環境マネジメントシステム「南信州いいむす 21」などに取り組む。	○ 実施中

◎：目標達成または計画通りに推移 ○：目標達成に向けて実施中

△：外部要因により実施停滞 ×：未着手

### (3) 平成 30 年度の取り組み状況

- ア 飯田市の ISO14001 の運用は、内部監査結果を踏まえ、9月に ISO14001:2015 年版に移行しました。
- イ 地域独自の環境マネジメントシステム「南信州いいむす 21」をより取り組みやすく改訂し、10月1日にリリースしました。この改訂により、環境一斉行動週間に取り組むことを義務付けるなど、環境改善行動に繋げました。
- ウ 地域ぐるみ環境 ISO 研究会として環境一斉行動週間を3回実施しました。結果は以下のとおりです。
  - (ア) 夏の環境一斉行動週間 参加内訳：54 事業所 5,907 名  
ノーマイカー:8,521 回 ライトダウン:14,245 回 冷蔵庫整理:4,822 台 日よけ準備、エアコン清掃 4,356 箇所
  - (イ) 秋の環境一斉行動週間 参加内訳:56 事業所 5,008 名  
ノーマイカー:8,114 回 タイヤ空気圧・荷室整理:5,292 回 冷蔵庫整理:4,642 台 備える防災への取組:5,826 回
  - (ウ) 春の環境一斉行動週間 参加内訳:66 事業所 7,364 名  
ノーマイカー:7,364 回 歩こう動こうプラステン:9,222 回 防災グッズ準備:2,713 個

### (4) 次年度に向けた課題及び取り組み

- ア 南信州いいむす 21 に取り組むメリットを整理し、分かりやすく示していくことが必要です。地域ぐるみ環境 ISO 研究会の会員事業所とともに議論し、持続可能なシステムを構築します。
- イ 家庭への取り組みは、取り組み内容を工夫し、実質的な環境改善活動となるよう地域ぐるみ環境 ISO 研究会で協議します。

(5) 対応する事務事業（資料編参照）

No.149 ISO14001 推進事業

## 基本的方向2-3 学校・保育園における環境負荷低減活動の推進

### (1) 計画期間中の取り組み目標

- ア 市内の小中学校において運用されている「学校のいいむす 21」、公立保育園において運用されている「保育園のいいむす 21」が、さらに教育に特化し運用しやすいよう、システム改善が進んでいます。それを基に、私立の保育園、幼稚園においても環境改善活動の輪が広がっています。
- イ 南信州地域の高校全8校で「南信州いいむす 21」が運用され、高校における環境改善活動の輪が広がっています。

### (2) 取り組み目標に対する進捗状況

4年後の目標に到達する手段	H30年度の進捗状況
① ・「保育園のいいむす 21」及び「学校のいいむす 21」に取り組む施設または組織の拡大と、システムの定着を目指す。 ・上記のシステムをISO 14001の2015年版規格改訂に合わせ、対象者及び施設の特異性を踏まえながら、システムの改善を検討する。	◎ 実施中

◎：目標達成または計画通りに推移    ○：目標達成に向けて実施中

△：外部要因により実施停滞        ×：未着手

### (3) 平成30年度の取り組み状況

- ア 公立保育園では「保育園のいいむす 21」、小中学校では「学校のいいむす 21」に引き続き取り組み、環境教育を通じた意識の醸成を図るとともに、保育園生活、学校生活の中で紙、ごみ、電気に対する取り組みが当たり前できるように指導を行いました。
- イ 保育園のいいむす 21 の運用について協議を行い、新年度から「南信州いいむす 21」に移行するための準備を進め、取り組み宣言を行いました。
- ウ 現在高校で取り組みを行っている「エコマネジメント長野」について、現状のヒアリングを開始しました。

### (4) 次年度に向けた課題及び取り組み

- ア 保育園全園が「南信州いいむす 21」に移行できるよう、その取り組み内容などを再確認し、実質的な改善活動につながるよう支援をしていく必要があります。
- イ 学校のいいむす 21 は、引き続き取り組むこととなっていますが、マニュアルがISO14001:2004年版をベースとしているため、今後の取り組みについて検討をしていく必要があります。
- ウ 高校での環境マネジメントシステムの取り組みは、高校及び県の関係機関へのヒアリングを継続して行い、マネジメントシステムの有効な運用を促します。

### (5) 対応する事務事業（資料編参照）

No.149 ISO14001 推進事業

## 基本的方向 2-4 地域活動における環境負荷低減活動の推進

### (1) 計画期間中の取り組み目標

- ア まちづくり委員会による各地域での環境啓発活動と、各種団体などによる実践的な環境負荷軽減活動との協働により、地域に根差した意識啓発が行われています。
- イ 一般家庭に導入しやすく効果の高い取組みなどの情報が共有され、環境負荷低減活動に対する市民の意識が向上し、行動に結びついています。

### (2) 取り組み目標に対する進捗状況

4年後の目標に到達する手段	H30年度の進捗状況
① 日常生活において、幅広い環境負荷低減活動が行えるよう各種団体が集い交流する場を創出し、市民への普及啓発を協働して取り組む。	◎ 実施中

- ◎：目標達成または計画通りに推移    ○：目標達成に向けて実施中  
△：外部要因により実施停滞        ×：未着手

### (3) 平成 30 年度の取り組み状況

- ア 「飯田地球温暖化対策地域協議会」から「飯田脱炭素社会推進協議会」へと名称変更を行い、脱炭素社会の構築に向けて協議会の運営及び支援を行いました。
- イ 身近な環境を自分たちの手で改善する活動の一つとして、全市一斉に河川清掃やごみゼロ運動を実施するよう呼びかけました。また、地区によってはごみゼロ運動に中学生が協力するなど、取り組みの輪は広まりつつあります。
- ウ 各地区の公民館活動においてふるさと学習が展開され、地域を知ることによる意識の醸成が行われています。
- エ アメシロ防除作業が引き続き各地区実施され、被害の拡大を未然に防いでいます。

### (4) 次年度に向けた課題及び取り組み

- ア 飯田脱炭素社会推進協議会の定例会、研修会等の活動を通じて会員相互の情報交換を行い、脱炭素社会の実現に向けて多様な主体による活動に取り組みます。
- イ 河川清掃参加者の高齢化とそれによる重大事故が危惧されるため、無理のない作業をしていただくように各地区へ依頼を行います。
- ウ 引き続き害虫駆除を適切に行うことで、被害を未然に防ぐことが必要です。

### (5) 対応する事務事業（資料編参照）

- ア No.142 環境衛生事業
- イ No.150 環境モデル都市行動計画進行管理事業
- ウ No.156 エコライフ啓発普及事業
- エ No.157 旧飯田測候所活用事業
- オ No.159 3R 推進事業